

6月報(2022年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

猪口神父様から、次のような発案があり「守護の天使の会」が発足しました。5月21日の会の時に神父様から出されたメッセージです。



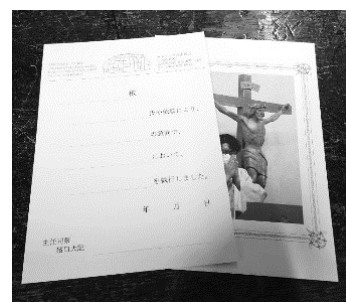
「守護の天使の会」をはじめます

福山教会では、「聖体授与の臨時の奉仕者」に任命された人を中心として、「病者訪問」が昔から広く行われてきました。ただ、新型コロナの世界的流行以降、病院や高齢者施設を訪問することが現実に難しくなるなどしています。また「病者訪問」という名称から、「聖体拝領」や「病者の塗油」、「ゆるしの秘跡」といった「秘跡を受けること」、「病気の人のため」との意識が強く働いたのではないかと思います。

もちろん信仰生活において秘跡、特に永遠のいのちの糧である聖体の重要度は計り知れませんが、病気の人を大切にするには至極当然です。しかし、以前「霊的花束」の呼びかけを行ったことを覚えておられる方も多いと思いますけれども、「キリストのからだ」である教会の文字通り共同体的な祈り合い、霊的な支え合いの面も大切です。

ところが病者訪問などのとてもキリスト者的な司牧的活動が、もっぱら聖体授与の臨時の奉仕者などの特定の信徒や司祭や修道者が行うものと認識されて過度に特別視されてしまい、一般の信徒の人が病者や教会から離れている人に対して霊的な面で働きかけることをはばかったり、何もできないと無力感を抱いたりしてしまうこともあります。これが続くと病者訪問などの司牧的活動が、さながら「中心的な特定の人々が、その他一般の人々に対して行うサービス」のように捉えられてしまい、特に霊的なことがらについて共同体的な在り方や自発性が損なわれることがあります。実際、霊的花束も司祭・修道者が呼びかけなければ行われませんが、病者訪問も司祭の活動に同行するという感覚が根強いようです。

そこであえて秘跡ばかりではなく、また病者ばかりではなく、同じ教会のメンバー（肢体）としてなかなかミサに来られない人々に気づき思い起し、共同体的な祈りを行い届ける活動を根付かせたいと考え「守護の天使の会」をはじめます。活動自体は、自発的にミサを依頼したり教会で共に祈ったりして、その事実などを記載したカードを届けるという、負担の少ないものです。どうぞご参加ください。



【信仰を生きる】

“暮らしの中の信仰生活”

畠ボナ

はじめに、信仰生活についてお話をいただいたときに正直困ってしまいました。お恥ずかしい限りですが、カトリック信者として特に書くようなことがなく、悩みました。思い浮かんだのは好きな時間と心がけていることについてです。お祈りの中で、母と一緒に祈りを捧げる時間と夜のお祈りの後一日を振り返って静かに過ごす時間が1番好きです。母とロザリオの祈りを一緒に捧げたり、別のお祈りをしている瞬間その時間に色んなことが共有され心をひとつにしているように感じられます。夜はお祈りをしたあと、一日振り返って反省し、暫くイエス様と向き合っって嬉しいことや苦しいこと、悩み、これからのことを黙想しながら静かに過ごす時間は心が穏やかになり癒されます。

そして、心がけていることは神様に日々の感謝を伝えることです。

子供のころはあれが欲しいです~あれを叶えて~とか願うばかりであり感謝を伝えたことがなく、むしろ不満におもったこともあります。そんな私に母は「願うばかりで感謝は伝えているの?」と問いました。「嬉しいことはもちろん、たとえつまずいてコケてしまったことも神様に感謝しなきゃいけないよ」と言われハッとして自分が恥ずかしくなりました。それからはどんな些細なことでも感謝を伝えていると、ふっと心が軽くなってどんなときでも一緒にいてくださるんだなと感じられるようになりました。

信者としてまだまだ未熟ですが、神様とともに過ごす時間と日々の感謝を大切に信仰を深めてこれからも過ごして生きたいと思います。

【ダプさんの結婚式】

野田茂生



4月、5月は、ベトナム人カップルの結婚式が教会で3組おこなわれました。どちらも心のこもった式でたいへん印象深いものでした。5月28日(土)は、タムさんとガンさん、ハウさんとフェさん、2組同時開催という「離れ業」に驚きました。一方、4月28日(土)の、ルアンさんとダプさんの式はたいへん盛大なものでした。素晴らしいのは、招待状をはじめ、ミサ、披露宴等、全てにわたり、ご本人とお友達たちによるほぼ完全な手作りの式であったということです。それも、しろうとの仕事とは思えないほどの質の高さで、それでいて、あたたかみあふれるものでした。



結婚式に限ったことではありませんが、日本人の多くは、サービスを金で買うことに慣れてしまい、彼らのように、みずからの手で丁寧に作り上げ、そのことによって本人も仲間も心から睦み合う、そんなことを忘れてしまったのではないかと、ふと思うのです。3組6人の新郎新婦のみなさんに心から「おめでとう」の言葉を贈ります。同時に、たいせつな仲間として、いっしょに教会を盛り上げて下さいね！

5/15（日） 9:00 ミサ後～ 3年ぶりの信徒総会開催



猪口主任司祭にとっても福山教会初の信徒総会です。50名弱の参加ですが、従来の件案が審議決議されました。司祭は、朴助任司祭も着任され、尾道と福山の兼務で、2022年度が新たにスタートしました。ウィズコロナの中工夫と忍耐、心機一転、創成の活動が求められています。

2022年度責任チームメンバー

【平和】大城セイイチ、マイ・ティ・ヒェン、桑田多香子、野田茂生

【養成】大内恭子、大塚陸雄、吉田和美

【協働】梅田理栄子、富山信行、中根まさみ

＊着任された責任チームメンバー：
大塚陸雄、桑田多香子、中根まさみ、吉田和美
＊退任された責任チームメンバー：
藤井幸恵、中島知子、田中美緒子、伊藤望、神原照子



5/15（日） 15:00～ ベトナム語ミサの「マリア祭」の写真です





5月になると木々の緑、色とりどりの花々で美しい自然界を感謝と感嘆の思いで眺めます。その光景にどれだけ心を癒されることでしょうか。

最近知ったことですが、こちらの自然界は手放しで美しいと感嘆できないことを。

私たちが毎日通勤する通路の小高川を越えて、同慶寺の近くの交差点の標識に「懸けの森登山口（かけのもりとざんぐち）」への道が示されていて、いつか行ってみたいなと思いながら、この冬のある日、そのルートを通ってみて、「ああここから入ればいいんだな、でも今は寒いから暖かくなったら、いつか行こうね！」と言って、その日は通り過ぎて大回りをして帰院しました。ところが、2月28日の福島民報に懸けの森についての記事が載っていました。懸けの森（標高536m）は古くから山岳信仰の霊場で、地元の人ばかりでなく、多くの人々に愛され、登山としてだけでなく、憩いの森として、また手ごろなハイキングコースとして大変よく利用されてきたとのことですが、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故によって被ばくしたこの山は、里山再生事業の



実施を求めています。放射線量の高い場所もあるにもかかわらず、除染が認められないで、11年間放置された山に入ることは事実上無理なようでした。

ということで私たちの希望は断たれた形になってしまいました。山林の除染はされないままですから、浜通りでは多くの山は入ることができない場所になっています。

そして、林業で生活しておられた方々、森の恵みに支えられていた人々の生活は原発事故によって一変してしまいました。浪江町の津島地域の木は津島木と津島の名がつけられた

木材が、また田村市ではシイタケ栽培のための上質の原木の出荷が現在も止まったままだとか（福島民報1月7日）。2009年の出荷原木本数は、225,000本余り。最盛期には900,000本を超えていたのが現在はゼロ。10年が過ぎた現在も130~200ベクレルと、国が定めた原木として使用できる指標値50ベクレルを上回り出荷できないままです。こうして原発事故は、多くの人々の生活手段を奪ってしまったのです。その人々の人生を根底から覆し、狂わせてしまったのです。浜通り、南相馬市が孤独死・自死の数が全国でも突出して多いのも頷けると思います。

3.11に先立って行われた「いのちの行進（4月号）」の時、村上霊園の上にある貴布根神社

(小高神社の近くのは貴船神社(1月号))に上りました。そこは相馬藩の海城の城跡ですが、建築途中に火事になって完成せず、縁起が良くないと別の場所に築城して、お城として存在していないのですが、城跡と言われています。その神社の境内に一本の松があります。奇妙なことにその松は根っこのところから枝が出ていて、普通の松のような幹がありません。



同慶寺の徳雲住職の説明によると、この松は生え出たちょうどその時に強い放射線を浴びて、

このようになったのではないかと言われました。

このようなことが植物に起こるとしたら、そのような山や林を駆け回っている動物に、そして人間に影響がないとは言えないと思います。この地域の人々は口にこそ出されませんが、やはり心のどこかには不安を抱えておられるのではないかと思います。ここでは新しい商品開発をする時、必ずその原材料の放射線の線量を測って、合格した物だけが使われるので安全だと言えます。

いろいろな学者がいろいろな説を唱えて何を信じてよいのか分かりません。山に入るとあまり他のところでは見られない現象：枝のつき方がおかしい木々など：それでも植物は自分の細胞の中でそれを消化して逞しく育っていくことができているので、動物にも同じことが言えるのではないかと。除染されていない山を駆け巡っている動物が必ずしも短命ではないし、内臓などの異常も起こしてもいない。動物にも異物を自己同化する力がある。だから、人間も・・・と。福島県の子供の甲状腺がんの発生率が高いのは、原発事故によって一斉の検査が行われたので(検査数が多いから)、全国平均より高くなっているだけだと結論付けているのに私は疑問を持っている者です。

近くの団地の男性が、急性白血病で亡くなったのも気になりますが、原発事故による放射線のためだとの因果関係ははっきりしないので責任を問うこともできません。その方は小高に比較的早く帰って、野菜作りをしておられました。収穫された野菜は線量を測って頂いておられたと思いますが、土を耕す作業から他の人より多く放射線を浴びておられたのではないかと、素人判断ですが疑っています。とっても良い方で、私たちのような外から来た者にも親切にかかわってくださる方でしたから悔しいのです。

修道院の近所の喫茶店の店員さんで、被災者の方と結婚しておられる方が、「主人が3月になると、不安定になるんですよ、お兄さんと祖父母を津波で亡くしたんです。祖父母が心配でお兄さんが祖父母を探しに家に戻って、一緒に流されたんです」と言っておられました。何年経っても、あの時に戻ってしまうんだそうです。今回の3.16の地震の時もそうです。相馬の男性の方が、10日間はぐちゃぐちゃの家具の中で動けなかった。屋根や壁の応急処置もできないまま。私が個人的にかかわっている目の不自由なご婦人は、当日高台にある病院勤務で雑

務をしていて、地震は何とか無事だったが、突然、原発のための緊急避難指示のため、患者さんをどこの病院に引き受けてもらえるか問い合わせ、一人一人の名前、生年月日、病状、お薬など行き先を書いた紙を準備して、首にかけさせて、バスに乗せるまで修羅場のような状況だった。この方は過労のためだと思いましたが、仮設住宅で突然視力を失われました。

またある方は、地震の後、食料調達にスーパーに行った先で、緊急避難と言われ、そのままバスに乗せられたと。ある方は、同じように急に何も持たず、着の身着のままバスに乗せられて、新潟まで行って、そこの避難所がいっぱいで、転々と…行きついたところが島根だったと。福岡だったという人もあります。本当に大変な逃避行を経験させられた方がどんなに多いことか。私は、避難がこんなに大変だったことを、ここに来てそのお話を聞くまで知りませんでした。そんな報道はあまりされなかったように思います。

【帰天のお知らせ】

- ・カタリナ クララ エメラルド 平野美和様(39歳)
- ・マグダレナ 井上留美香様(89歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

6・7月の行事予定

6 月		7 月	
5(日)	聖霊降臨の主日	17(日)	街頭募金 終業式
12(日)	三位一体の主日	30~31	日曜学校キャンプ
19(日)	キリストの聖体 父の日	31(日)	7時墓地ミサ(雨天 8/7)
23(木)	洗礼者聖ヨハネの誕生		
24(金)	イエスのみ心		
29(水)	聖ペトロ 聖パウロ使徒		

6月の月報が完成しました。多くの原稿を色々な人に頼んだところ、こころよく引き受けてくださり有難うございました。今後は、古い信者さん達に福山教会の思い出等を書いてもらい、シリーズ化していこうと思っています。乞うご期待下さい。(O.M)

月報委員会